

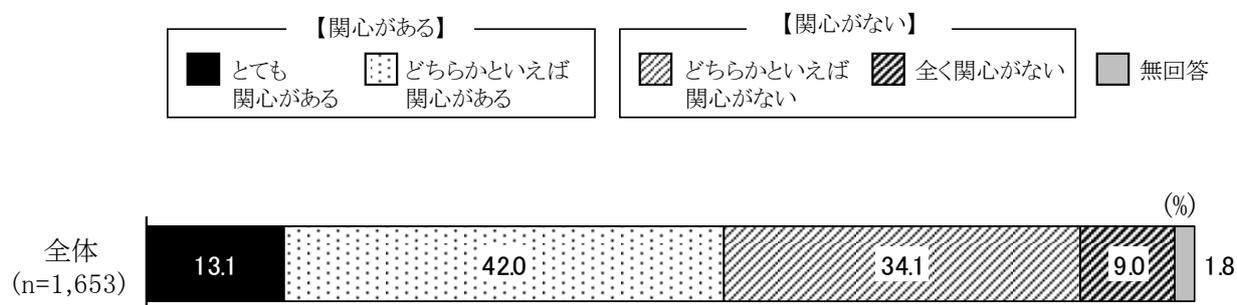
## 2.6 かわさきの農業について

### (1) 都市農業に対する関心度

問 19. あなたは都市農業（市街地など都市部で営まれる農業）に関心がありますか。

「とても関心がある」(13.1%)と「どちらかといえば関心がある」(42.0%)を合計した【関心がある】は55.1%であり、「どちらかといえば関心がない」(34.1%)と「全く関心がない」(9.0%)を合計した【関心がない】は43.1%であった。

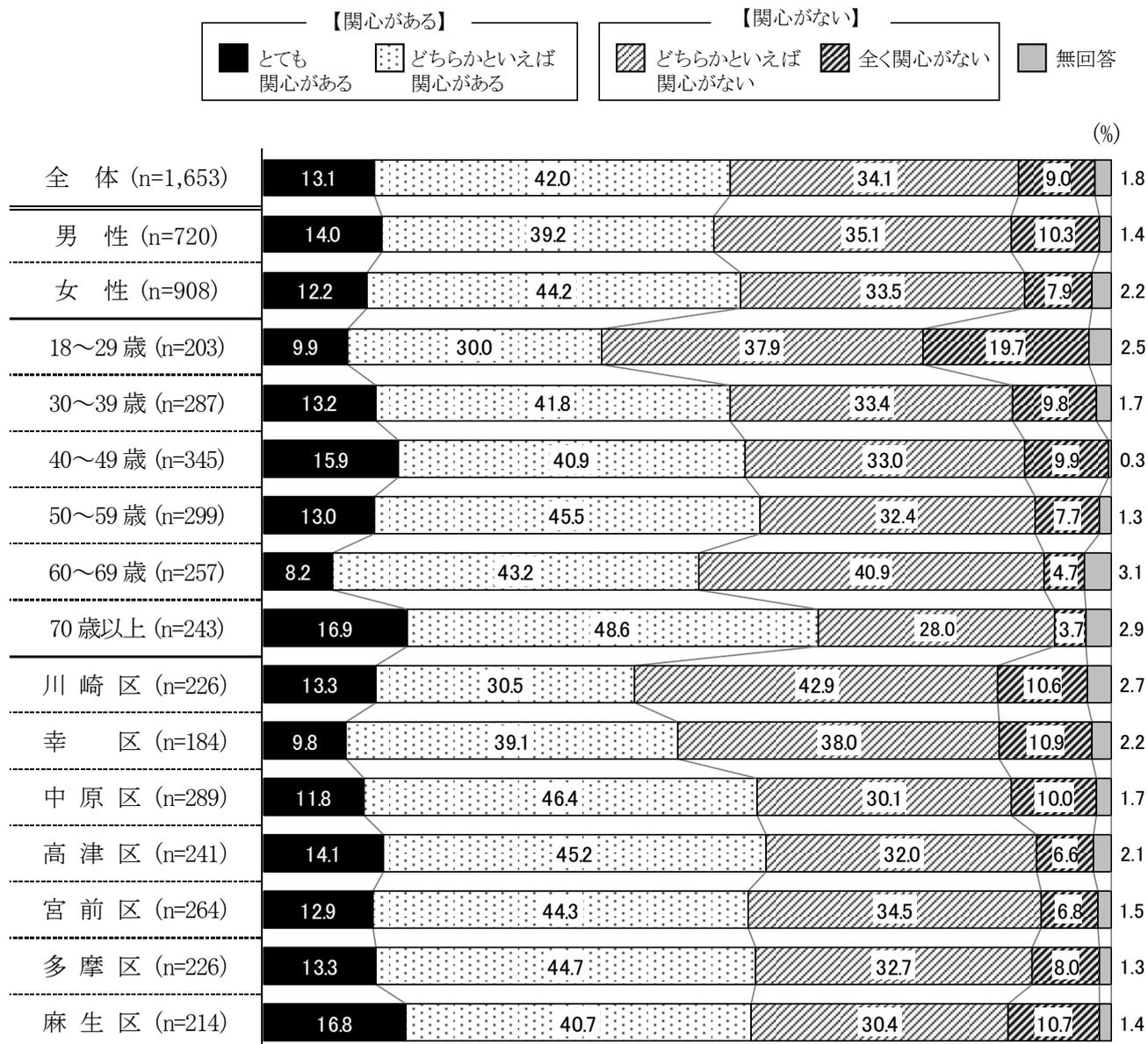
【図表 128】都市農業に対する関心度



性別に見ると、「とても関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合計した【関心がある】は女性の方がやや多い（男性：53.2%、女性：56.4%）。年齢別では18～29歳で39.9%と最も少なく、70歳以上では65.4%と最も多い。

居住区別に見ると、中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区においては【関心がある】が5割を上回っている。

【図表 129】都市農業に対する関心度（性別・年齢別・居住区別）

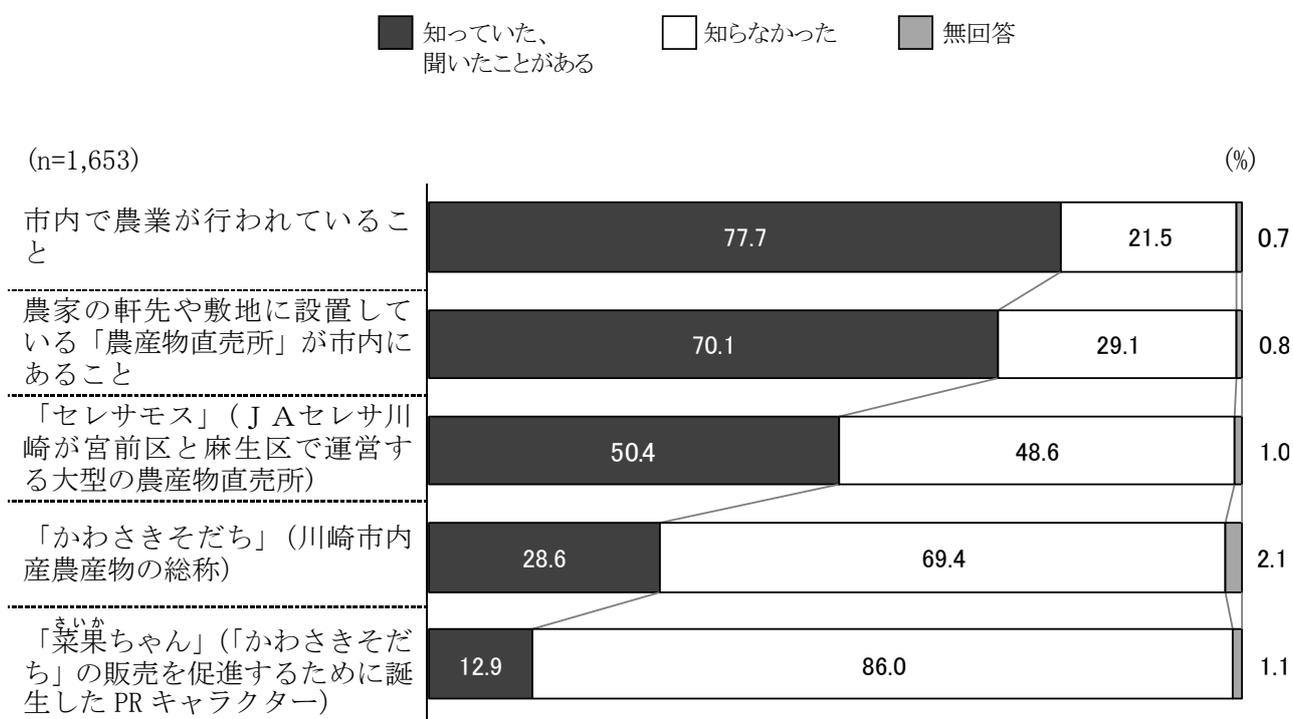


## (2) かわさきの農業についての認知

問 20. あなたは、かわさきの農業について、次の項目を知っていますか。それぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。

「市内で農業が行われていること」と「農家の軒先や敷地に設置している「農産物直売所」が市内にあること」の2項目では「知っていた、聞いたことがある」が7割を超えているが、「<sup>さいか</sup>「菜果ちゃん」(「かわさきそだち」の販売を促進するために誕生したPRキャラクター)」は1割強であった。

【図表 130】かわさきの農業についての認知

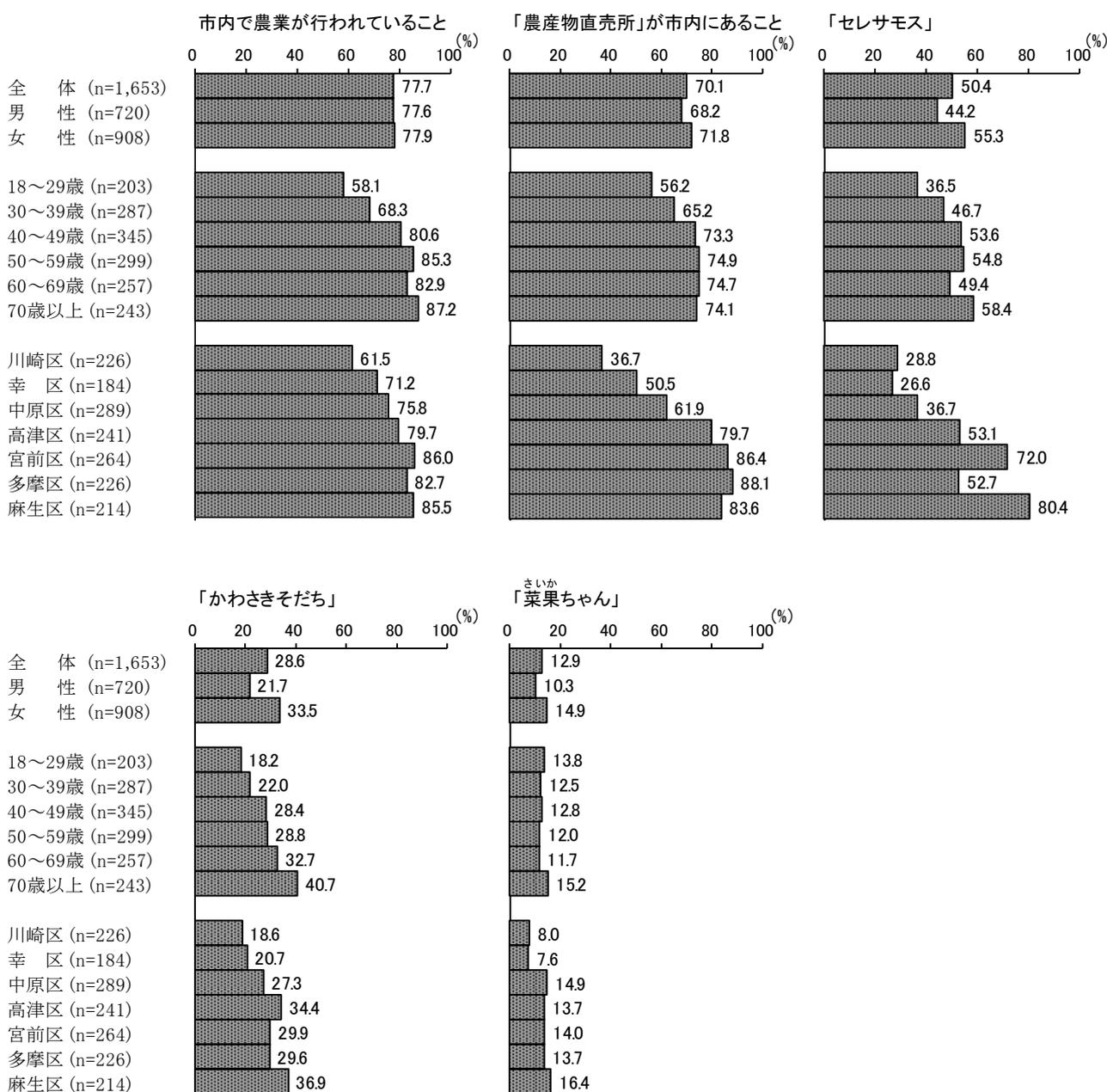


性別に見ると、全ての項目において女性の方が男性より認知度が高い。

年齢別に見ると、「<sup>さいか</sup>「菜果ちゃん」(「かわさきそだち」の販売を促進するために誕生したPRキャラクター)」を除いた4項目では、概ね年齢が高くなるほど認知度が高くなっている。

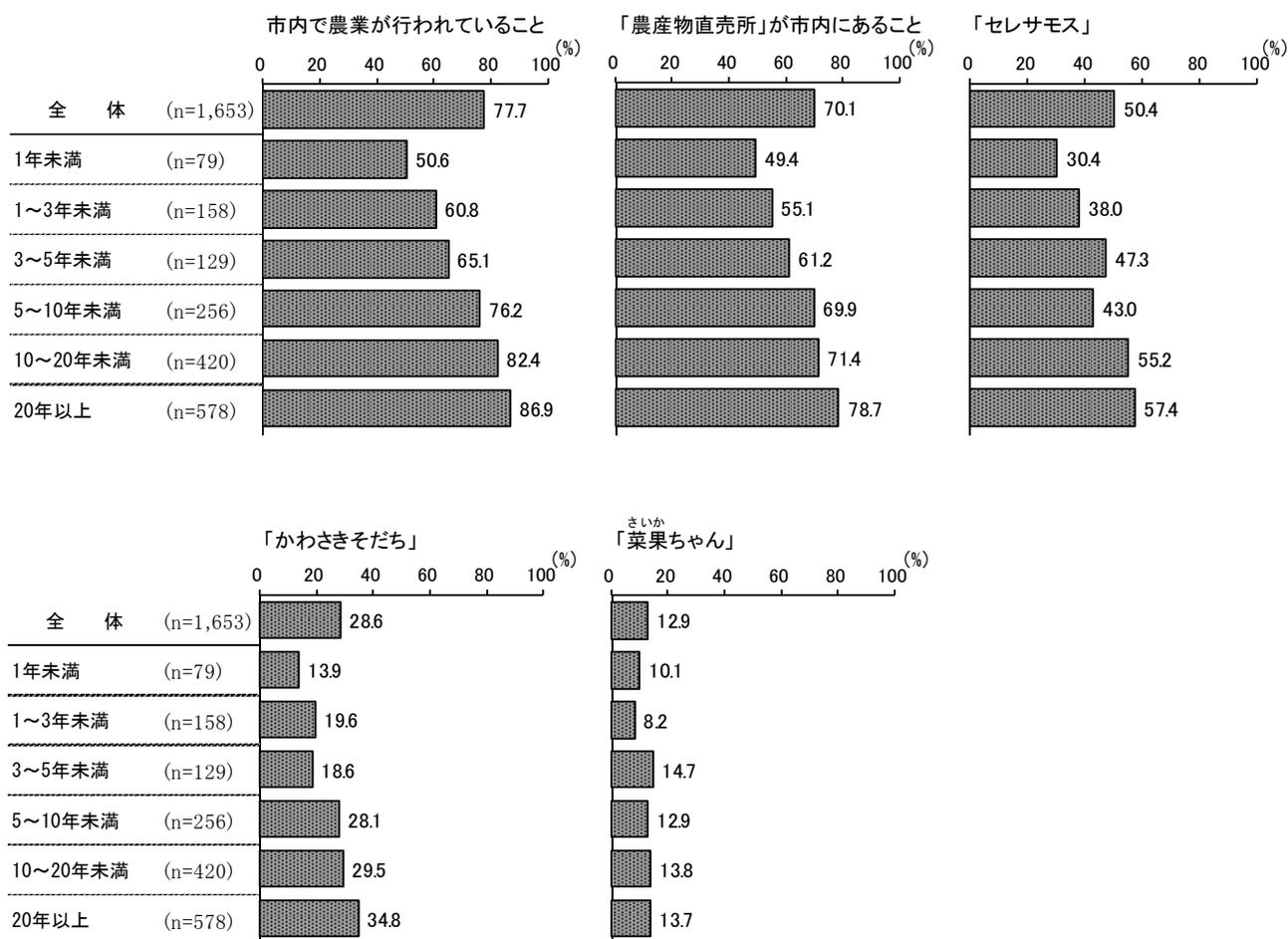
居住区別に見ると、ほとんどの項目において「川崎区」と「幸区」では認知度が低く、「麻生区」、「宮前区」、「多摩区」といった農業が多く行われている区では認知度が高い傾向があり、特に「セレスモス」(JAセレス川崎が宮前区と麻生区で運営する大型の農産物直売所)については、所在地の「宮前区」「麻生区」における認知度が高い。

【図表 131】かわさきの農業についての認知(「知っていた、聞いたことがある」回答者)  
(性別・年齢別・居住区別)



居住年数別に見ると、「<sup>さいか</sup>「菜果ちゃん」(「かわさきそだち」の販売を促進するために誕生したPRキャラクター)」は居住年数にかかわらず認知度が低いが、そのほかの4項目では、概ね居住年数が長くなるほど認知度が高くなっている。

【図表 132】かわさきの農業についての認知(「知っていた、聞いたことがある」回答者)  
(居住年数別)

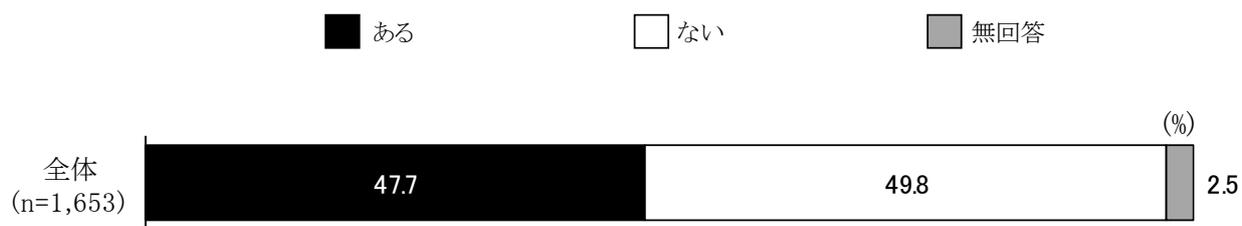


### (3) 市内産農産物の購入経験

問 21. あなたは、市内産農産物（野菜・果物・花など）を購入したことはありますか。

「ある」が47.7%、「ない」が49.8%であった。

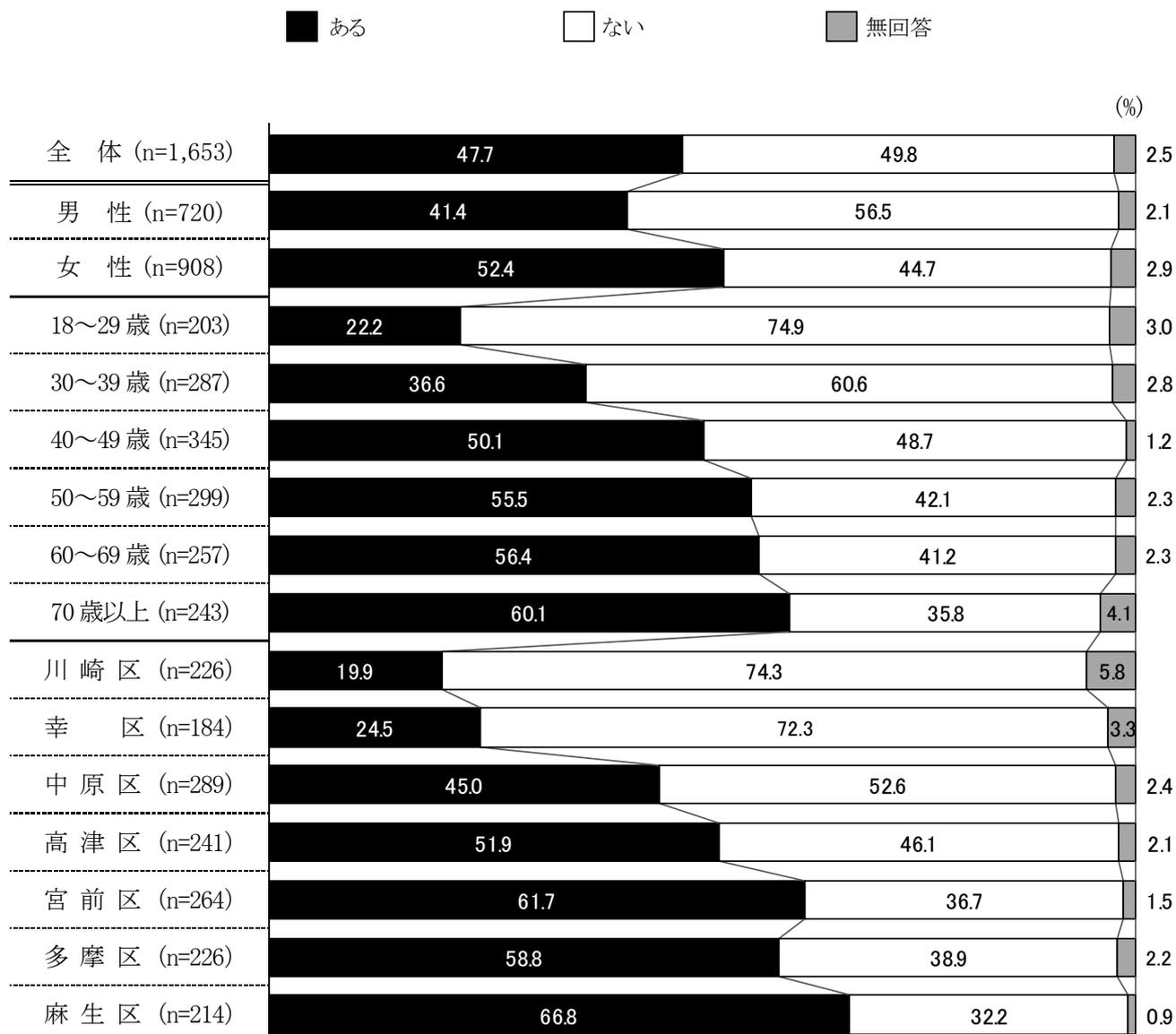
【図表 133】市内産農産物の購入経験



性別・年齢別に見ると、購入経験が「ある」と回答した人は男性よりも女性の方が多く、また、年齢が高くなるほど多くなっている。

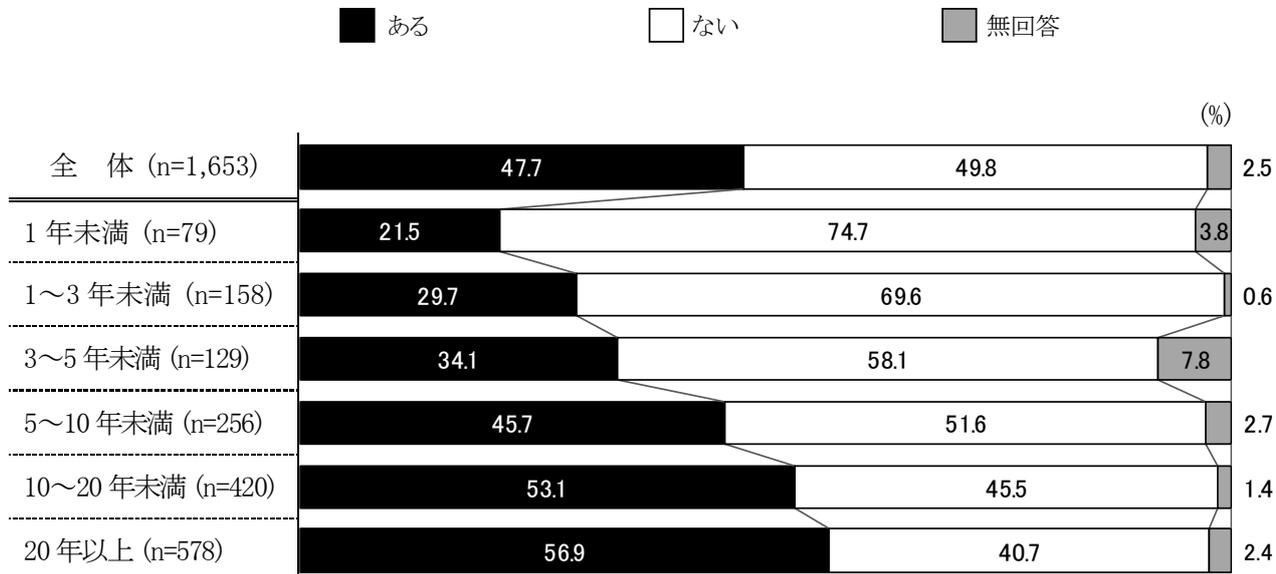
居住区別に見ると、川崎区では「ある」は2割程度であるが、宮前区、麻生区では6割を超えている。

【図表 134】市内産農産物の購入経験（性別・年齢別・居住区別）



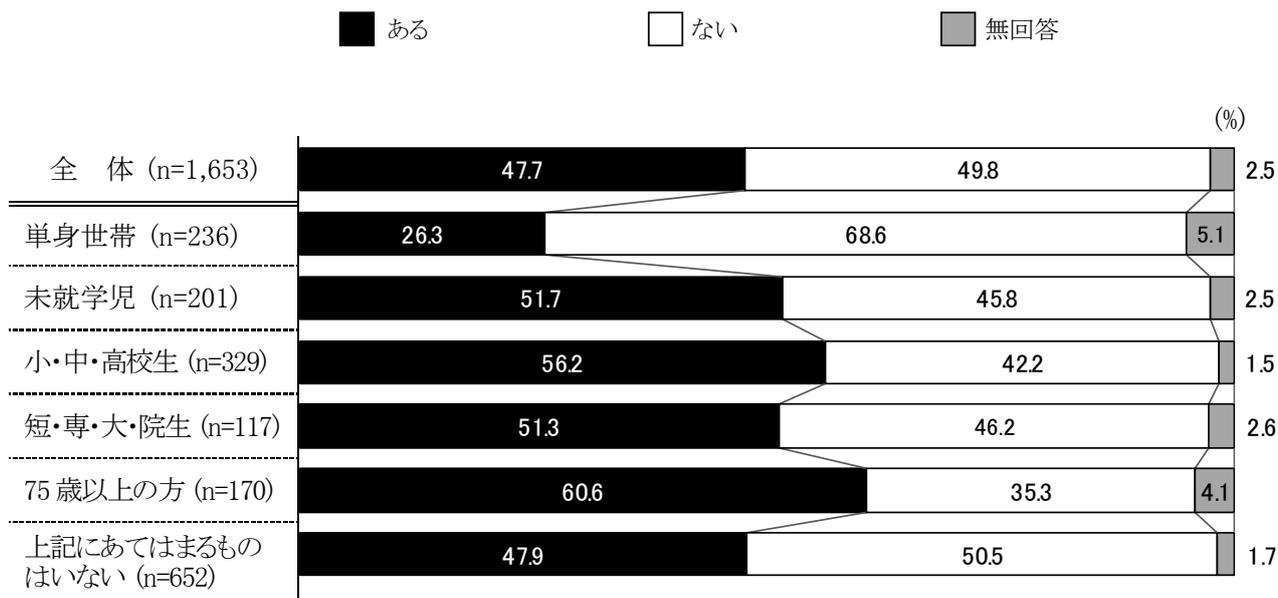
居住年数別に見ると、購入経験が「ある」と回答した人は居住年数が長くなるほど多くなっている。

【図表 135】市内産農産物の購入経験（居住年数別）



同居者別に見ると、購入経験が「ある」と回答した人は同居者に「75歳以上の方」がいる人で約6割、「未就学児」「小・中・高校生」「短・専・大・院生」のいる人も5割台となっている。一方で、「単身世帯」の人は26.3%と少ない。

【図表 136】市内産農産物の購入経験（同居者別）



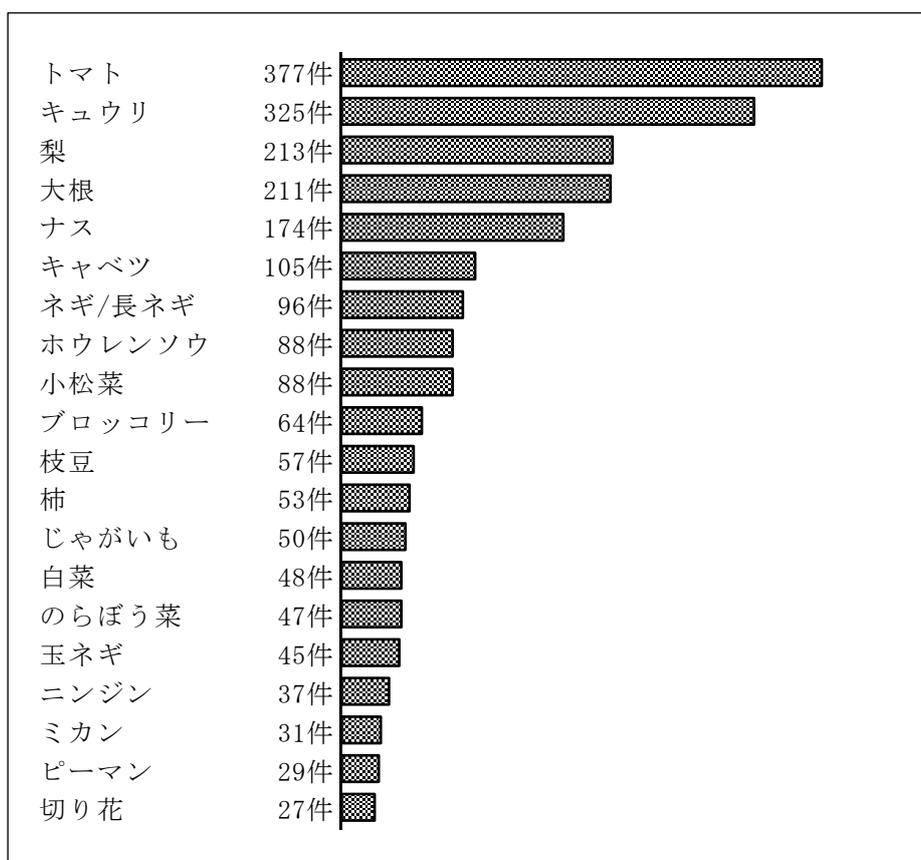
※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

## (4) よく購入する市内産農産物

問 21-1. あなたがよく購入される野菜・果物・花を教えてください。(5 つまで)  
 【例：トマト、キュウリ、梨、切り花】 (自由記述)

市内産農産物を購入したことが「ある」と回答した人(788人)に、よく購入する野菜・果物・花を5つまで回答してもらったところ、2,550件(野菜2,098件、果物356件、花90件、その他6件)の回答が得られた。

【図表 137】よく購入する市内産農産物《上位20項目》



(5) 「農に関わる取組」の実施状況・実施意向

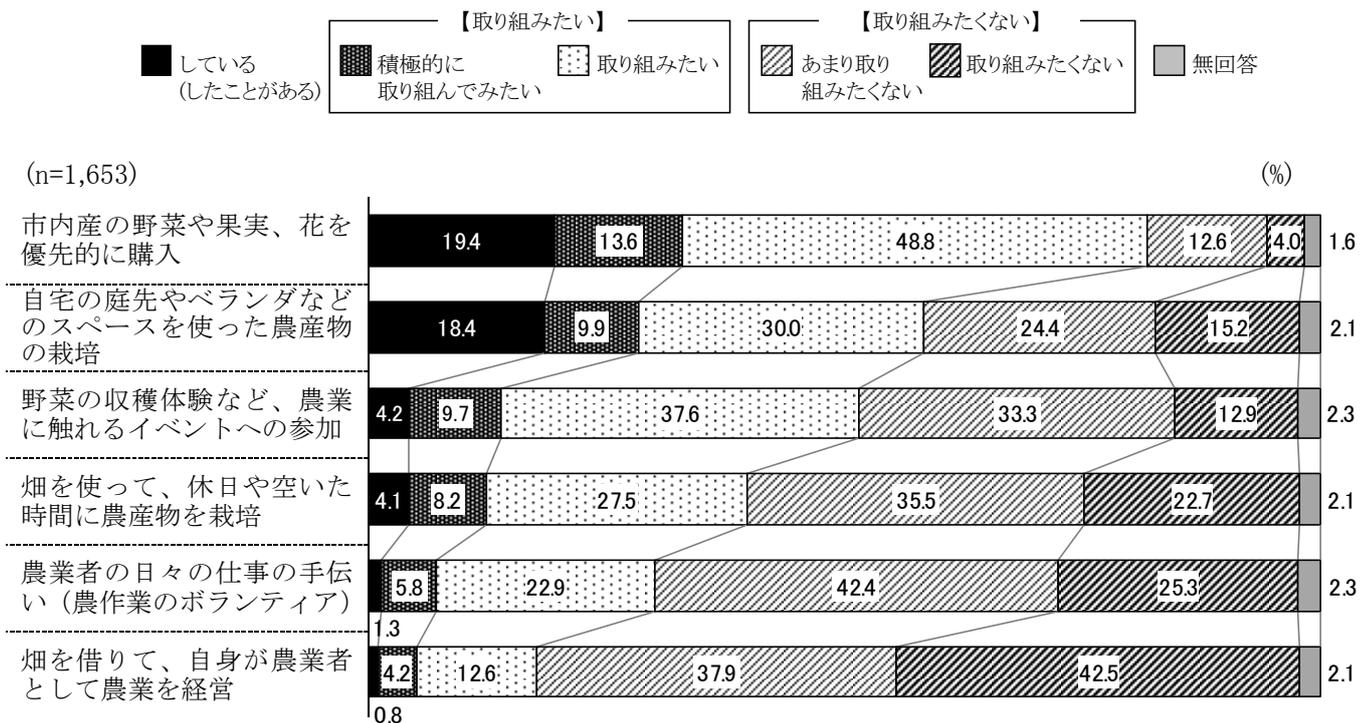
問 22. あなたは、自分の暮らしの中で、どのような形で「農に関わる取組」をしていますか。していない場合は、どの程度してみたいと思いますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。

「している（したことがある）」は、「市内産の野菜や果実、花を優先的に購入」（19.4%）と「自宅の庭先やベランダなどのスペースを使った農産物の栽培」（18.4%）の2項目以外は5%を下回っている。

「積極的に取り組んでみたい」と「取り組みたい」を合計した【取り組みたい】は、「市内産の野菜や果実、花を優先的に購入」（62.4%）が最も多く、次いで「野菜の収穫体験など、農業に触れるイベントへの参加」（47.2%）、「自宅の庭先やベランダなどのスペースを使った農産物の栽培」（39.9%）と続いている。

「あまり取り組みたくない」と「取り組みたくない」を合計した【取り組みたくない】は、「畑を借りて、自身が農業者として農業を経営」（80.4%）が最も多く、次いで「農業者の日々の仕事の手伝い（農作業のボランティア）」（67.7%）、「畑を使って、休日や空いた時間に農産物を栽培」（58.3%）と続いている。

【図表 138】「農に関わる取組」の実施状況・実施意向

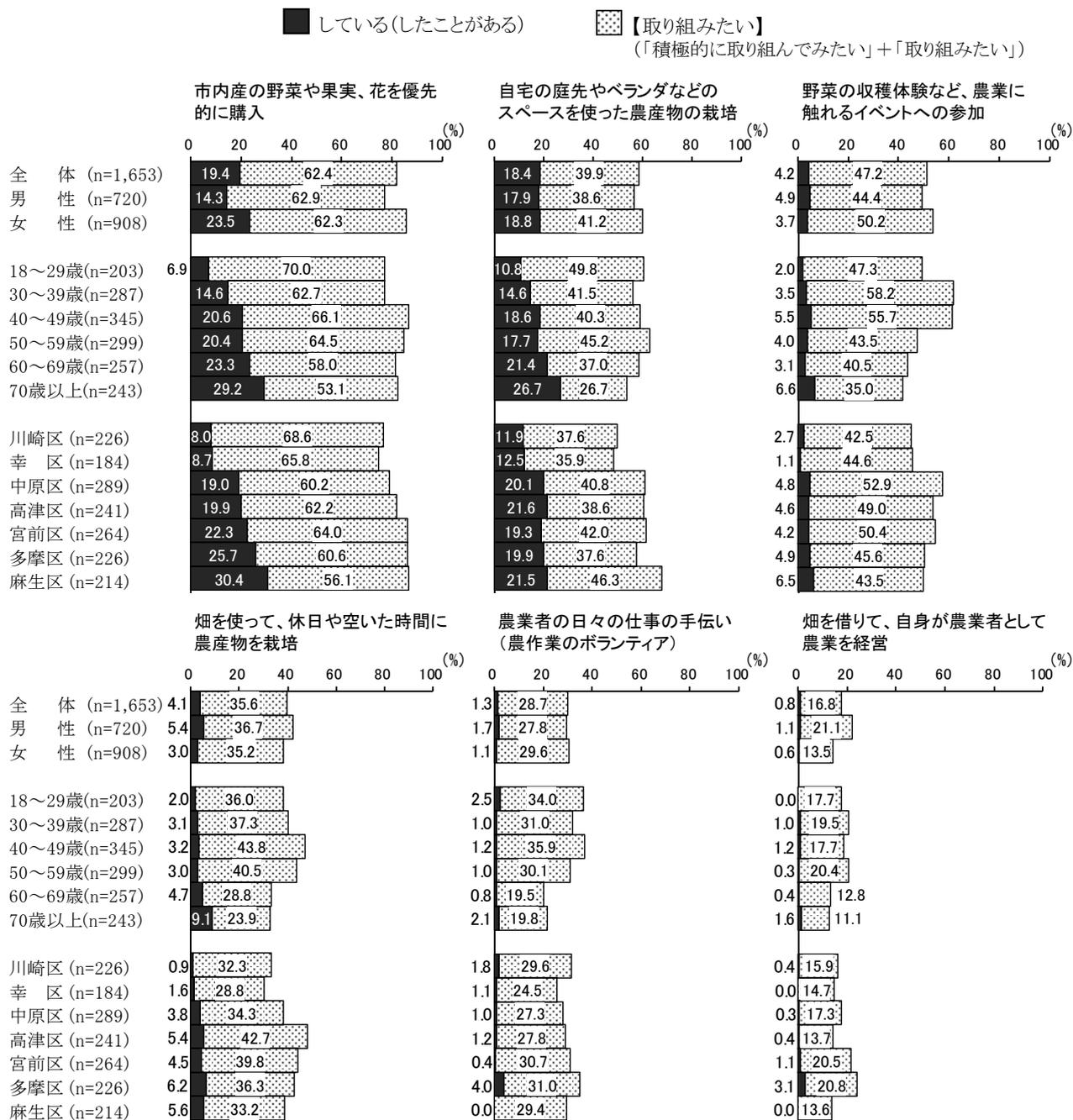


性別に見ると、「市内産の野菜や果実、花を優先的に購入」では「している(したことがある)」人は女性の方が多い。また、「畑を借りて、自身が農業者として農業を経営」では「積極的に取り組んでみたい」と「取り組みたい」を合計した【取り組みたい】で男性の方が多くなっている。

年齢別に見ると、「市内産の野菜や果実、花を優先的に購入」や「自宅の庭先やベランダなどのスペースを使った農産物の栽培」では「している(したことがある)」は概ね年齢が高いほど多いが、【取り組みたい】は概ね年齢が低いほど多くなっている。また、「野菜の収穫体験など、農業に触れるイベントへの参加」では30歳代~40歳代、「畑を使って、休日や空いた時間に農産物を栽培」では40歳代で他の年代と比べて多い。

居住区別に見ると、「市内産の野菜や果実、花を優先的に購入」では「している(したことがある)」は川崎区と幸区で1割を下回って少ないが、【取り組みたい】は6割台後半と、他の区と比べて多い。

【図表139】「農に関わる取組」の実施状況・実施意向(「している(したことがある)」・【取り組みたい】回答者)(性別・年齢別・居住区別)



(6) 川崎市の農業施策の進め方についての考え

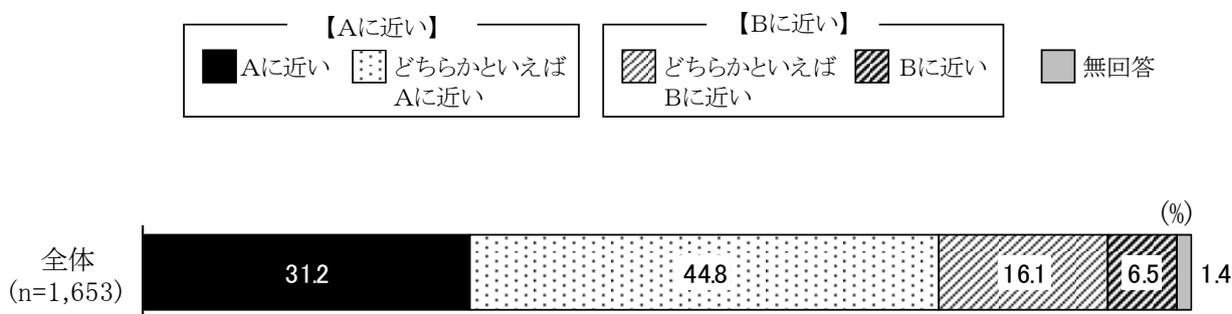
問 23. 川崎市が農業施策を進めることについて、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

**A:市が直接、農業振興に取り組む必要がある**

**B:国、都道府県、農業者が取り組めばよい**

「Aに近い」(31.2%)と「どちらかといえばAに近い」(44.8%)を合計した【Aに近い】が76.0%、「どちらかといえばBに近い」(16.1%)と「Bに近い」(6.5%)を合計した【Bに近い】が22.6%と、【Aに近い】と回答した人の方が多かった。

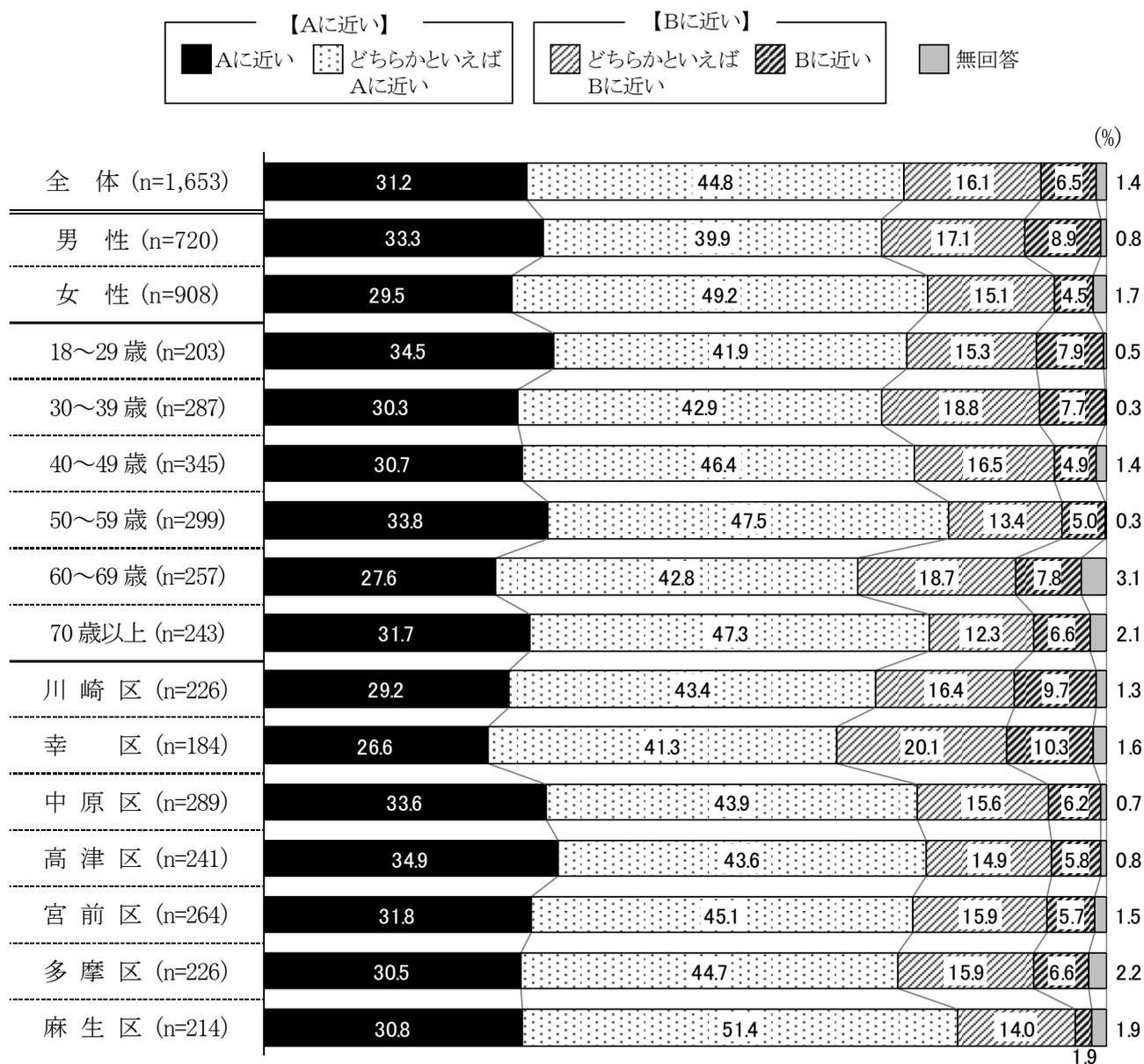
【図表 140】川崎市の農業施策の進め方についての考え



性別に見ると、「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」を合計した【Aに近い】は女性の方が多くなっている（男性：73.2%、女性：78.7%）。また、年齢別では特に大きな違いは見られないが、50～59歳で【Aに近い】がやや多くなっている。

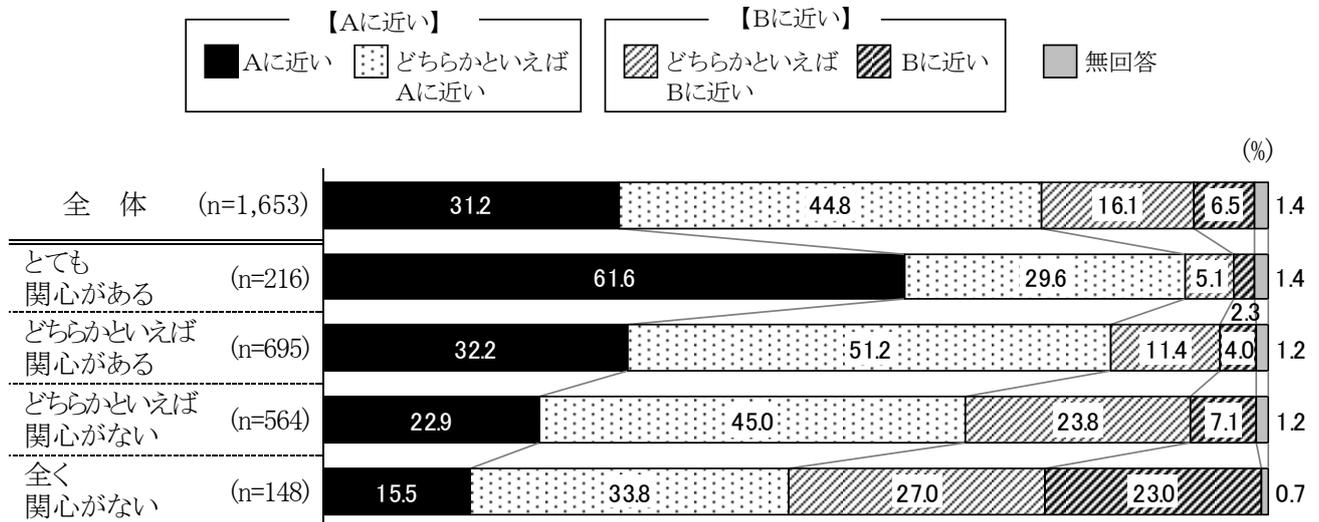
居住区別に見ると、【Aに近い】は幸区で67.9%と最も少なく、麻生区で82.2%と最も多い。

【図表 141】川崎市の農業施策の進め方についての考え（性別・年齢別・居住区別）



問19の「都市農業に対する関心度」の回答別に見ると、「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」を合計した【Aに近い】は都市農業に関心がある人ほど多くなっている。

【図表 142】川崎市の農業施策の進め方についての考え  
 (「都市農業に対する関心度」回答別)

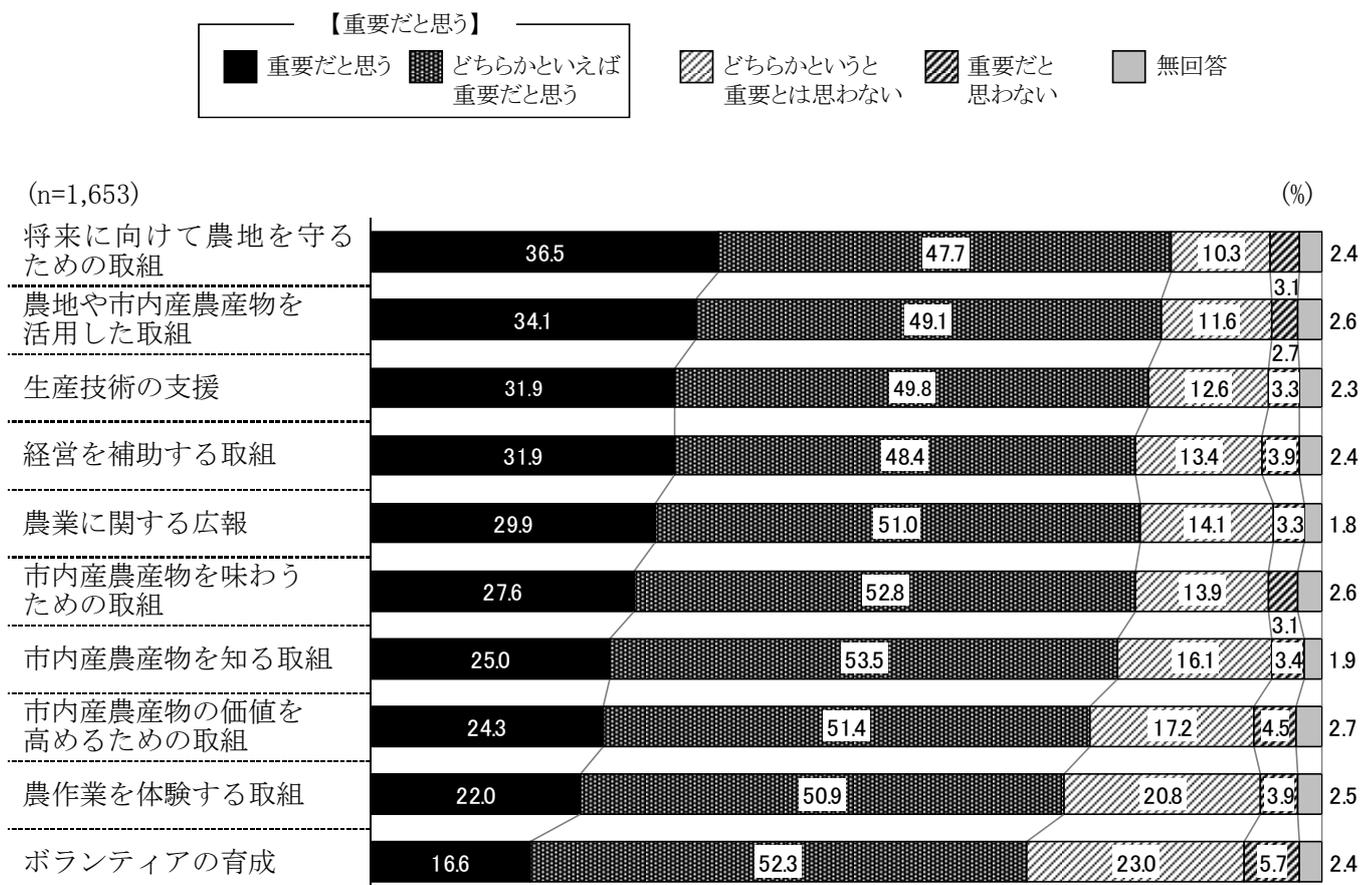


## (7) 川崎市の「農業」に対する取組の重要度

問 24. あなたは、次の川崎市の「農業」に対する取組はどの程度重要だと思いますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。

「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」を合計した【重要だと思う】は、「将来に向けて農地を守るための取組」(84.2%)が最も多く、次いで「農地や市内産農産物を活用した取組」(83.2%)、「生産技術の支援」(81.7%)と続いている。

【図表 143】川崎市の「農業」に対する取組の重要度



性別・年齢別に見ると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」を合計した【重要だと思う】はどの項目においても7割台から8割台と多く、特に大きな違いは見られない。

居住区別でも同様に大きな違いは見られないが、幸区で【重要だと思う】が他の区と比べてやや少なくなっている。

【図表 144】川崎市の「農業」に対する取組の重要度（【重要だと思う】回答者）《上位8項目》  
（性別・年齢別・居住区別）

